

常総市復興計画
先導的事業の提案
(答申)

平成28年2月20日

常総市復興計画策定委員会

常総市復興計画 体系図（ツリー図）

基本理念	柱	基本方針				
川と向き合い、川とともに育ち、「住みたい」を大切に する常総	きもち	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">基本姿勢</td> <td style="text-align: center;">住みたいを大切にする</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民がみな、常総のまちを愛し、人を愛し、明るい未来をイメージしている。</td> </tr> </table>	基本姿勢	住みたいを大切にする	市民がみな、常総のまちを愛し、人を愛し、明るい未来をイメージしている。	
	基本姿勢	住みたいを大切にする				
	市民がみな、常総のまちを愛し、人を愛し、明るい未来をイメージしている。					
	くらし	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">基本姿勢</td> <td style="text-align: center;">川とともに暮らす</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民がみな、「川との共生」という原点に回帰し、常総だからこそ日々の暮らしを堪能している。</td> </tr> </table>	基本姿勢	川とともに暮らす	市民がみな、「川との共生」という原点に回帰し、常総だからこそ日々の暮らしを堪能している。	
基本姿勢	川とともに暮らす					
市民がみな、「川との共生」という原点に回帰し、常総だからこそ日々の暮らしを堪能している。						
まもり	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">基本姿勢</td> <td style="text-align: center;">みんなで災害に備える</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民がみな、まさかに備え、いざという時に行動できる、常総ならではの「守り」の力を手にしている。</td> </tr> </table>	基本姿勢	みんなで災害に備える	市民がみな、まさかに備え、いざという時に行動できる、常総ならではの「守り」の力を手にしている。		
基本姿勢	みんなで災害に備える					
市民がみな、まさかに備え、いざという時に行動できる、常総ならではの「守り」の力を手にしている。						
ほり	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">基本姿勢</td> <td style="text-align: center;">新拠点（常総インターチェンジ周辺）を形成し、農商工復興を推進する</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市民がみな、常総の「強み」を理解し、力をあわせてさらなる発展を目指している。</td> </tr> </table>	基本姿勢	新拠点（常総インターチェンジ周辺）を形成し、農商工復興を推進する	市民がみな、常総の「強み」を理解し、力をあわせてさらなる発展を目指している。		
基本姿勢	新拠点（常総インターチェンジ周辺）を形成し、農商工復興を推進する					
市民がみな、常総の「強み」を理解し、力をあわせてさらなる発展を目指している。						

市民の「きもち」

目指す姿	重点施策	事業
市民がみな、常総のまちを愛し、人を愛し、明るい未来をイメージしている。	住み続けたい、にんえる	① 住まいの総合相談
		② 住まいの減災対策支援
		③ 空き家リニューアル促進
		④ 身近な生活環境の充実
		⑤ 市民目線の医療機能充実
		⑥ 時代に即した公共施設の再整備
	戻りたい、住んでみたいを実現する	⑦ 生活再建相談
		⑧ 多世代同居・近居支援
		⑨ よそもの・わかもの定住支援
		⑩ 住宅ローン等優遇
	とともに生き、絆を強める	⑪ 世代間交流の推進
		⑫ 国際交流の促進
		⑬ 地元人材の国際化促進
		⑭ 市民価値共創イベント
	力を合わせる	⑮ 情報発信力改革
		⑯ 未来を考える市民会議
		⑰ 地域おこし協力隊など外部人材の導入
		⑱ オリピック・パラリンピックキャンプ地誘致
		⑲ PPP・PFIの先進都市の実現
		⑳ クラウドファンディングによる復興の促進
	みらいにつなげる	㉑ 常総未来学の創設
		㉒ 電子図書館及び常総アーカイブ
		㉓ 永年公文書保管体制の整備

「きもち」の柱 事業一覧表

重点施策	事業名	事業内容
住み続けたい、に 応える	住まいの総合相談	先進事例を参考に、専門機関と連携し、住宅の修繕・建替え、生活再建、支援制度活用方法など、さまざまな相談ができるような体制を整備し、住み続けたいを支援する。
	住まいの減災対策支援	床上浸水による大規模被害を繰り返さぬよう、住宅の高床化工事などの減災対策を検討し、安心・安全な住まいの確保を支援する。
	空き家リニューアル促進	空き家や空きアパートなどの戦略的な活用を進め、共同で暮らせる場づくり等を官民協働で検討し、具体化する。さらに、「空家等対策の推進に関する特別措置法」と連動した被災・老朽空き家対策と利活用を促進する。
	身近な生活環境の充実	身近で買い物する場所や環境を整備すると同時に、家族ですごせる衛生的かつ身近な公園を整備する。子どもから高齢者まで安心してまちを歩ける環境づくり、ペットと一緒に生活できるなど、常総市での楽しい生活を実現する施策を実施する。
	市民目線の医療機能充実	分娩可能な産婦人科、小児科が弱点という常総市の課題を克服するために、さらなる医療機能の充実や新規開業の支援を行うとともに、近隣自治体と連携した広域的な医療体制を整える。また、市内に住む外国人のためにも、医療通訳体制を充実させる。
	時代に即した公共施設の再整備	災害の経験や市民の声をもとに、近隣自治体との連携による公共施設の相互利用や災害時の有効活用など、時代に即した市内の公共施設の役割・機能を全面的に見直す。
戻りたい、住んで みたいを 実現する	生活再建相談	市民の生活再建に関する相談体制を整備し、各種支援制度の情報提供、関係機関との連携による相談事業を継続する。特に、他の地域に避難している方々への重点的な支援を行い、一刻も早い常総市での平穏な生活を実現する。
	多世代同居・近居支援	独立し家を建てようとする若い世帯や、常総市に縁のある人が、常総市に住む親族の近くで家を構えることを促進する。そのために、市内に家を建てる際に補助をする仕組みをつくる。
	よその・わかもの定住支援	新たに常総市に住み、常総市で働き、子育てをする世帯を増やすために、新しい常総市のライフスタイルなどを提案し、多世代同時転入を促進する施策を検討し、実行する。
	住宅ローン等優遇	住宅等を購入、修繕するために新規に借り入れた場合及び被災前の既存（二重）ローンに対して利子補給する。さらに、金融機関と連携し、新築の際には金利優遇策を実施する。
ともに生き、 絆を強める	世代間交流の推進	若い世代が高齢者と交流し、学び合い、助けあう新たな仕組みを整備する。また、多世代交流型サロンを設置し、若い世代が中心に集まり、生活支援が必要な方も気軽に食事ができ、近所づきあいを広め、市民が声を出せる場所を設け、地域のまつりに多世代が参加できるようにする。
	国際交流の促進	日本、ブラジル、中国など、常総市住民の多様性を活かし、互いの文化や価値観を共有し、尊重し合いながらともに生きるきっかけとなるイベントを実施する。また、外国人が集まり、さまざまな情報が得られ、住みやすい常総市を構想できるサロンを設置する。
	地元人材の国際化促進	若者がバイリンガル人材として活躍できるよう、仕事の環境を作りながら地域の国際化を進める。また、外国人が多様な仕事に就けるようキャリア支援を行うとともに、地元の店舗や公共施設の通訳として活躍できるよう支援する。
	市民価値共創イベント	「食」を通じて、地域間の交流を進め、新たな「食」を生み出す。地域の特産品を市民が食し、調理し、理解し、常総きぬ川花火大会などのイベントで特産品を活かした料理を出店する。これにより、常総市が一体となって新たな価値を共創する展開を作る。
力を 合わせる	情報発信力改革	緊急時だけでなく、平常時における情報共有体制・発信力を抜本的に高めるため、専門の広報監を雇用し、行政だけでなく、市民・市内の情報を収集し、リアルタイムで発信するメディアと体制を整備する。これにより、市民との対話だけでなく、常総市の魅力を積極的に社会に発信でき、ブランド力の強化や風評被害の回避等に貢献できる。
	未来を考える市民会議	市民からの意見を行政に反映しやすくする。これまで、パブコメや説明会を主としてきたが、市民の声データベースやSNSのビッグデータ利活用を含む、市民からの新たな提案を受け入れるための枠組みを構築する。そして、市民と行政が一緒になり市内外へ情報発信していくきっかけをつくる。
	地域おこし協力隊など外部人材の導入	常総市の強み、長所を束ね、地域おこしと地域ブランド化を進める地域おこし協力隊など、「よその・わかもの」を市内に呼び込む。また、外からの目を見た常総市の魅力発信を進める。
	オリンピック・パラリンピックキャンプ地誘致	常総市は、ハンドボール、柔道、サッカーなど、古くからスポーツが盛んなまちである。市社会体育施設の指定管理者ミズノグループのノウハウと茨城国体2019終了後の各種インフラを利活用し、東京2020オリンピック・パラリンピックのキャンプ地等として選んでもらえるよう官民一体、さらには近隣自治体と連携した取り組みを展開する。
	PPP・PFIの先進都市の実現	民間のノウハウを活かした、より安心・安全で信頼のおける質の高い行政運営を行うことによって、時代のニーズに合った子育て支援・就労支援を行う。その他にも、PPP・PFIを活用できる事業は積極的にその活用を実行する。その際に、常総市に拠点を構える企業等を優先する。
	クラウドファンディングによる復興の促進	戻りたい、住みたいと思う常総市ファンを多く形成するために、クラウドファンディングを活用して住宅再建を中心とした復興に向けての事業を積極的に実施する。
みらいに つなげる	常総未来学の創設	市内外の小学生から高校生までが常総市の魅力を学び、郷土愛を育む。そして、子ども達が子ども目線で自ら考えた常総市の魅力、市内外の高校生によるワークショップで提案された常総市の未来、等を市内で共有し、常に新しい常総市の姿を追求する。
	電子図書館及び常総アーカイブ	電子書籍の閲覧・貸出等の電子図書館機能を整備し、利用者の利便性の向上を図る。今回の災害の記憶を風化させることなく後世に引き継ぐためにも、収集した関連資料を写真、エピソードも含めてデジタル化し公開していく。
	永年公文書保管体制の整備	災害に強い保存施設を構築し、貴重な行政資料と合わせ、民間の重要な資料も保存できるようにし、未来を考える資料として活用していく。

市民の「くらし」

目指す姿	重点施策	事業
市民がみな、「川との共生」という原点に回帰し、常総だからこそ日々の暮らしを堪能している。	潤いのある市民生活を取り戻す	<ul style="list-style-type: none"> ① 心のケア ② 市民のふれあい促進 ③ 地域包括ケアシステムの構築
	まちを学び、川に学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ④ 小学校社会科副読本の活用 ⑤ 歴史展示会 ⑥ 「かわまち」の歴史教育 ⑦ 水防学習館の設置
	水辺の安心と魅力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 河川クリーンプロジェクト ⑨ 河川敷・土手道散歩道の整備 ⑩ 拠点となる水辺公園の整備 ⑪ 水質浄化の推進
	川を楽しみ、健康で幸せになる	<ul style="list-style-type: none"> ⑫ 健康イベントの実施 ⑬ 小貝川三大堰を巡り楽しむ健康づくり ⑭ スポーツ・コンテンツの開発と実施
	水害経験を資源に転じる	<ul style="list-style-type: none"> ⑮ 「縁結び」の推進 ⑯ 水害学習ツアー ⑰ 水害復興駅伝・マラソン大会 ⑱ 復興プロスポーツイベントの誘致 ⑲ 「映画を作ろう！」 ⑳ 常総市復興祈念「関東鉄道スリーナイン」

「くらし」の柱 事業一覧表

重点 施策	事業名	事業内容
潤いのある市民生活を 取り戻す	心のケア	児童生徒、保護者、教職員の心のケアのために、小中学校に臨床心理士等を派遣し、組織的・継続的な支援を行う。また、市適応指導教室に教員経験が豊富な教育相談員や心理カウンセラーを配置する。それらを行うため、筑波大学医学医療系や茨城県立医療大学等の県内の大学等との連携も視野に入れる。
	市民のふれあい促進	ボランティアやNPO、大学と連携して、空き家等を活用した交流拠点の整備を行い、被災者が楽しみ、ふれあいのあるくらしができるよう支援する。子育てをする母親等が気軽に集える場を設け、防災や市内行事などの情報を入手できるようにする。
	地域包括ケアシステムの構築	より一層の高齢化、認知症高齢者の増加が予測されるなか被災者の心のケアのみならず、介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるように、介護だけでなく、医療や予防、生活支援、住宅等の確保を包括的に支援するための地域包括ケアシステムを構築する。
まちを学び、 川に学ぶ	小学校社会科副読本の活用	小学校の社会科学習や総合的な学習で活用されている、常総市の歴史、地域の生活や産業（農業・商業・工業）、公共施設等の利用等に関する内容をまとめた副読本「わたしたちの常総市」を活用し、災害の記憶や災害に対する備えについて再確認し、かつ地元や地域を愛する気持ちを育てる。
	歴史展覧会	常総市の歴史や河川・水資源に関する教育機会の提供のため展覧会を開催する。これまでの災害等にかかる歴史を学ぶことで、いざという時に行動できる知識を蓄える
	「かわまち」の歴史教育	常総市は水運で栄えた歴史を持つ。伝統ある商家や古老の話、神社仏閣や地名の由来などを掘り起こし、書籍や看板により市民や来訪者に意識されるようにする。水運や水害に関する史跡を整備する。
	水防学習館の設置	川との共生、防災教育、災害経験の伝承をテーマとする水防学習館及び防災アーカイブを設置する。
水辺の安心と魅力を高める	河川クリーンプロジェクト	現在行っている河川敷の清掃のイベントをより効果的に進めるため、花火大会等のイベントに向けての清掃、国際交流イベント、小中高校生のワークショップ等と絡めて実施する。
	河川敷・土手道散歩道の整備	それぞれの河川の上流、下流自治体と連携しながら、鬼怒川や小貝川、八間堀川等に沿って散歩やサイクリングができる連続した土手道等を整備する。併せて、例えば市内に多く住むブラジルの方々との交流を深めるため、ブラジルの国花・イペー等の並木道を整備する。
	拠点となる水辺公園の整備	既存の魅力ある水辺をさらに活かす整備を進める。遊歩道、物産品販売所、桜つつみの鑑賞路、アクセス路、駐車場等の整備を行うとともに、投棄物対策を行い、現存の資源を保全しながら、見やすい案内板等を増やす。アクセス路を嵩上げするなど防災面の強化を兼ねる。
	水質浄化の推進	植生浄化、礫間浄化等の水質浄化法を最大限に活用・実践し、鬼怒川・小貝川・八間堀川を中心として市内の河川の水質を浄化する。昔のように子供が泳ぎ、鮭や鮎が泳ぐ姿を目指す。
川を楽しみ、健康で 幸せになる	健康イベントの実施	河川の上・下流自治体と連携しながら、比較的距離が短い鬼怒川東側堤防等を利用して、ウォーキングイベントを開催する。また、上下流に距離のある小貝川堤防等を利用して、サイクリングイベントを継続的に開催する。
	小貝川三大堰を巡り楽しむ健康づくり	常総地方観光促進協議会（つくばみらい市、守谷市、取手市、常総市）で作成した「小貝川三大堰を巡る歴史ウォーキングマップ」を活用し、4市で連携して、自然に親しみながら行う健康づくりのためのウォーキングイベントを実施し、広域的な観光を促進する。
	スポーツ・コンテンツの開発と実施	川を利用したスポーツ・コンテンツ（ポート・カヌーなど）を開発し、実施する。筑波大学体育系と協働し、川を楽しみながら健康になる常総市ならではのコンテンツを生み出す。さらに、中学校高校等において川を活用した部活動・課外活動を推進する。
水害経験を資源に転じる	「縁結び」の推進	今回の災害では、全国各地のさまざまな方々に支援を受けた。この縁も生かし、さまざまな地域や国との交流を行う。例えば、常総市の資源を生かした農業体験やサマーキャンプ、特産物の流通などを推進する。
	水害学習ツアー	常総市や観光物産協会、関東鉄道、大学生などと連携し、市外の方が常総の災害を学ぶツアーを実施する。その際に、レンタサイクル等の事業を拡大するとともに、市内のお勤めの店舗やお土産等の情報を発信することで、観光振興にも寄与する。
	水害復興駅伝・マラソン大会	市街地を市内外の小中学生で襷を繋いで走る。将来的には、常総市全体を舞台にマラソン大会を実施し、まちににぎわいを取り戻すきっかけとするとともに、復興機運の維持・高揚をねらう。
	復興プロスポーツイベントの誘致	さまざまなプロスポーツの大会等を水害復興祈念大会として誘致し、水害経験を継承しながらプロスポーツ選手と触れ合う機会を創出する。また、常総市の社会体育施設の指定管理者であるミズノグループと協力して、スポーツが盛んな街として市内外へ発信していくことで、常総市の魅力を向上させる。
	「映画を作ろう！」	常総市は映画撮影地として有名であることを活かし、川や水資源などをテーマにした自主映画の撮影を募り、支援する。
常総市復興祈念「関東鉄道スリーナイン」	関東鉄道の貸切列車内で演劇を実施する。常総市をテーマに沿線の風景とともにストーリーを展開させ、地域の魅力、復興をPRする。公演後は市街地を散策し、地元の名産やグルメを楽しむ。また、車内演劇、散策等に地元出身の著名人に協力を依頼し、集客力や話題性を高める。	

市民の「まもり」

目指す姿	重点施策	事業
市民がみな、まさかに備え、いざという時に行動できる、常総ならではの「守り」の力を手にしている。	丈夫なふるさとの基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> ① 避難施設・避難所の整備 ② 防災・避難拠点の形成 ③ 河川防災ステーションの整備 ④ 排水施設整備と広域排水計画の推進 ⑤ 災害に強い農産物貯蔵施設の構築
	安全でスマートな空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 土地利用計画の見直し ⑦ 農業土地改良の促進 ⑧ コンパクトシティの実現 ⑨ スマート交通システム実証実験の導入
	日頃から減災のための人づくり	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 地域防災計画・関連マニュアルの作成 ⑪ 自ら考え、行動できる防災教育 ⑫ 災害情報システムの再整備 ⑬ まるごとまちごとハザードマップの作成 ⑭ 中小企業・福祉事業所等の災害対応力向上
	地域で助け合うコミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> ⑮ 集会所（コミュニティ）機能の充実 ⑯ 地域支え合いボランティアの育成 ⑰ 共助体制の整備 ⑱ 地域コミュニティの重点支援
	市を越え支え合う連携づくり	<ul style="list-style-type: none"> ⑲ 近隣自治体との災害連携協定の推進 ⑳ 民間との災害連携協定の推進 ㉑ 災害支援プロジェクトチームの常設 ㉒ 公共交通の広域連携 ㉓ 友好都市の締結

「まもり」の柱 事業一覧表

重点 施策	事業名	事業内容
丈夫なふるさとの基盤づくり	避難施設・避難所の整備	避難施設については、市内における各種災害リスクと避難の局面に応じた機能の2点を考慮した配置計画を立て、順次整備を進める。また、中学校区単位程度で防災備蓄品等を備えた特定避難所、災害時要援護者向けの福祉避難所を整備するとともに、避難所機能の向上のための災害協定の締結を推進する。
	防災・避難拠点の形成	各種災害リスクと交通の利便性を考慮した立地に、十分な災害対策を施した上で、地域住民が避難できる場所のほか、他地域で災害が発生した際に支援活動を行う防災・避難拠点を形成する。
	河川防災ステーションの整備	水害発生時または発生の恐れがある場合の水防活動を迅速に行うために必要な備品を備蓄する河川防災ステーションなどを整備し、土のう袋や土砂などの水防用品を備蓄する。
	排水施設整備と広域排水計画の推進	氾濫時に水を排水するための排水機場の整備を進めるとともに、鬼怒川や小貝川流域全体での広域的排水計画の調整に主導的に取り組む。
	災害に強い農産物貯蔵施設の構築	水害時や震災時の農産物の被害を回避するため、最先端の水防・耐震技術及び保温・保管技術に基づく大規模な農産物貯蔵施設を構築する。
安全でスマートな空間づくり	土地利用計画の見直し	常総市内における各種災害リスクや地域防災計画等を踏まえて、常総市内全体の土地利用計画を再考し、その中で、将来的な洪水調整機能の整備についても十分な調査・検討を進める。
	農業土地改良の促進	土地改良事業を実施することで、農地の排水機能を高めるとともに、安全で持続可能な農業経営基盤を確立する。これらを両立可能な農地の集約化を推進する。
	コンパクトシティの実現	災害経験をふまえ、道路による堤防機能も考慮に入れながら、中長期的人口減や財政の厳しさを考慮し、コンパクトシティの実現を推進する。
	スマート交通システム実証実験の導入	今回の災害においても、自動車による避難や水害後の諸対応（ボランティアの参加、廃材の搬出、物資の輸送等）により、交通渋滞の問題が生じた。平常時・緊急時におけるべき経路選択等について、筑波大学×常総市による実証実験を行い、安全でスマートな交通システムを再考し、社会実装を目指す。
日頃から減災のための人づくり	地域防災計画・関連マニュアルの作成	災害の検証結果を踏まえ、より実効性の高い計画書とするべく全面的な見直しを行い、併せて洪水ハザードマップ、避難所運営マニュアル、災害時初動マニュアルの作成を行う。
	自ら考え、行動できる防災教育	児童生徒の防災リテラシーを育成すべく、体験学習や各種訓練等を年間計画に位置付け、継続的に学校防災教育を実施していく。さらに、教職員の市役所との連携を含めた災害時対応マニュアルを作成する。
	災害情報システムの再整備	災害関連情報を幅広くリアルタイムで伝達するため、スマートフォンの災害情報アプリを開発するとともに、ライブカメラの設置による情報収集体制を整備する。また、防災無線や防災ラジオのようなスマートフォンを利用していない方のための情報伝達システムの再整備を進める。
	まるとまちごとハザードマップの作成	電柱などに実績浸水深や想定浸水深、避難所や避難経路を示した表示板を設置する。また、学校教育やコミュニティ活動において作成された防災マップ等についても、コンテスト開催や公共施設での掲示、戸別配布などにより積極的に活用していく。
	中小企業・福祉事業所等の災害対応力向上	商工会等と協力して、地元の中小企業向けに防災に関する継続的な研修の場を設ける。経験と成果に基づいた「中小企業の防災」は他地域にも活用できるものになる。
地域で助け合うコミュニティづくり	集会所（コミュニティ）機能の充実	集会所は平常時も災害時も地域の拠点である。そのため、地域の集会施設と機能をさらに充実させる。
	地域支え合いボランティアの育成	介護予防活動を実施する介護予防推進員、地域のニーズを把握し生活支援サービスとの結びつけや調整を行う生活支援コーディネーターの育成・活動を通し、地域で自立した生活、或いは自分らしい生活を送れるよう支援し、住民の力で地域全体が安心して暮らせるまち（コミュニティ）づくりを目指す。
	共助体制の整備	防災体制の整備や災害時の共助について、市内の自治区の成功例を全自治区で共有する。さらには、地区防災計画の作成を推進するとともに、防災学習会や各種訓練等を実施し、共助体制・自主防災活動の定着化を図る。また、SNS等で平常時から有効性の高い情報を発信し、災害時情報ツールとしての活用も促す。
	地域コミュニティの重点支援	災害からの地域コミュニティ再興のためのサークル活動の立ち上げ及び運営、交流イベントの開催などに限定した補助制度を創設する。復興の実現を図るため、被災した市民や避難している市民の交流を促進し、自治組織や地域コミュニティの復活と再興を支援する。
市を越え支え合う連携づくり	近隣自治体との災害連携協定の推進	災害時における市町村間での迅速な人的・物的支援や避難者の受入など、広域での相互支援・連携体制の構築に主導的に取り組む。
	民間との災害連携協定の推進	企業や農業生産法人と緊急時における災害連携協定の締結を推進する。市内で発生した災害対応のほか、他地域で災害が発生した場合の災害対応を協働して進める。
	災害支援プロジェクトチームの常設	今回の災害対応経験を踏まえ、他地域での災害発生時には迅速に被災地及び被災自治体の支援活動を開始できる体制を整える。また、この取り組みを通じて、市庁業務において「防災の日常化」を図り、職員の災害対応の練度を高める。
	公共交通の広域連携	平常時だけでなく、緊急時にも役立つ、公共交通の広域連携を進展させる。
	友好都市の締結	水害サミットへの加盟と貢献だけでなく、水害経験のある自治体と友好都市を締結し、災害時の支援、協力体制を構築する。

市民の「ほこり」

目指す姿	重点施策	事業
市民がみな、常総の「強み」を理解し、力をあわせてさらなる発展を目指している。	常総インターチェンジ周辺の食農・防災拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> ① アグリサイエンスバレーの促進 ② 防災営農・産業団地の整備 ③ 防災機能を持つ「道の駅」の整備 ④ 市民参加型ミニマムショップの促進
	農業を再建し、振興する	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 地域農業戦略の策定と実施 ⑥ 認定農業者の育成支援 ⑦ 農業効率化の支援 ⑧ 青年就農給付金の交付 ⑨ 水田から畑作への転換支援
	商工業を再建し、振興する	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 緊急対策融資 ⑪ 被災中小企業の復興支援 ⑫ 新しい商業を考える場の創出
	農商工連携と世界展開を支援する	<ul style="list-style-type: none"> ⑬ 世界最先端のアグリ・テクノロジーの応用支援 ⑭ 6次産業化・農商工連携の推進 ⑮ 安心・安全なブランドの確立と発信 ⑯ グリーンツーリズムの強化 ⑰ 世界で通用する常総の食農の開発支援 ⑱ グローバルにがんばる企業応援
	若者・後継者のネットワークづくりを支援する	<ul style="list-style-type: none"> ⑲ アグリビジネスの雇用促進 ⑳ ビジネス支援サービスの実施 ㉑ 「わかもの・よそもの」交流の促進 ㉒ ベンチャー営農活動拠点の構築

「ほこり」の柱 事業一覧表

重点 施策	事業名	事業内容
農・防災拠点づくり	常総インターチェンジ周辺の食	農業と産業の融合によるアグリサイエンスバレー構想に賛同する、新しい農業・産業に取り組む法人が、市内で行う初期投資に対して助成を実施し、アグリサイエンスバレーの促進を図る。
	防災営農・産業団地の整備	産業団地の基盤を整備し、ベンチャー企業も含む企業を誘致する。また、農地の大区画化、営農団地の基盤整備、大規模施設園芸の実践、農業生産法人の誘致・育成を行う。進出企業には税制や雇用促進等の優遇制度を設け、災害連携協定の締結を条件とし、防災拠点としての機能を付加する。
	防災機能を持つ「道の駅」の整備	常総インターチェンジ周辺の営農団地や市内外の農産物の6次産業化に資する道の駅を整備する。このとき防災機能を持つ道の駅を目指す。併せて、立地企業との災害時応援協定を満たしたものとする。
	市民参加型ミニマムショップの促進	防災機能を持つ道の駅周辺の駐車場などを活用し、コンテナや軽トラックで市民が気軽に店を出せる場と体制を整備する。
農業を再建し、振興する	地域農業戦略の策定と実施	集落・地域での話し合いに基づき、水田の畑地化や地域振興作物の選定を含む農業戦略と経営再開計画を作成し、常総市全体の新たな地域農業の復興を図る。
	認定農業者の育成支援	認定農業者（農林水産省）の認定を推進する。また、農業基盤の整備や農業用機械等の購入に際し、利子助成を実施し、認定農業者育成のための支援を行う。
	農業効率化の支援	農業の大規模経営化、貸農地（農地バンク）などを強力に推進し、早く、効率的に、持続可能な農業経営の実現を支援する。
	青年就農給付金の交付	青年の新規就農者を確保するため、支援金を交付する。経営が不安定な就農直後に支援を行うことで、持続的に農業を続けてもらう。
	水田から畑作への転換支援	米以外のパイロット的に栽培する作物に対し、技術支援・販路開発等経営支援を行う。また、ブラジル関連作物、ハラル対応作物などを栽培することで世界展開の足がかりとする。
し、振興する 商工業を再建	緊急対策融資	災害の影響により損害を受け、経営の安定に支障をきたしている事業者に対し、事業継続のための融資を実施する。
	被災中小企業の復興支援	国・県と連携し、被災した中小企業への各種助成などを通じ、事業の再開や事業継続を支援する。また、中小企業や商工会などが行う商工業の復興に対する取り組みを支援する。
	新しい商業を考える場の創出	現在不足している、市民が集い、自由に常総で新しい商業を議論する場を作る。
農商工連携と世界展開を支援する	世界最先端のアグリ・テクノロジーの応用支援	シリコンバレー及び日本の最先端のアグリ・テクノロジー（低コスト光型栽培装置、農作業の自動化技術、IoTによる農作業の最適化、農作物の加工技術）の実践を支援する。技術的支援やビッグデータ解析等は、筑波大学の協力を得る。
	6次産業化・農商工連携の推進	6次産業化を推進するため、プランナーによるサポート、無利子融資資金の償還期間等の延長、新商品開発・販路開拓等に対する補助のかさ上げ等を実施する。その際には、銀行等のファンディングを積極的に活用する。
	安心・安全なブランドの確立と発信	原発の風評被害を払拭し、オリンピック・パラリンピックに常総の農作物を提供できるよう、海外の安全基準もクリアする「常総ブランド」を商業と連携して確立する。さらに、積極的にその情報発信を行う。
	グリーンツーリズムの強化	あすなるの里を中心に、農業体験を積極的に提供し、観光農園や広大な田んぼの広がる田園風景を活かすグリーンツーリズムを促進する。
	世界で通用する常総の食農の開発支援	常総の米、味噌、野菜、肉等を、常総発の名産食セットとして販売するために、商品開発の支援を行う。
	グローバルにがんばる企業応援	常総市で開業し、農業のグローバル展開に寄与する企業の自発的な取り組みに対して、開業場所の提供や販路開拓への支援を行う。
を支援する 若者・後継者のネットワークづくり	アグリビジネスの雇用支援	常総インターチェンジ周辺整備事業で形成される産業団地・営農団地・道の駅を想定した集客販売施設への雇用支援、営農団地における新規就農及びベンチャー企業の育成を支援する。経営者の右腕として活躍する人材の確保や後継者マッチングなどの支援も行う。
	ビジネス支援サービスの実施	市図書館に設置されている「ビジネス支援コーナー」の充実を図る。資料提供だけでなく、相談会や研修会、セミナーなどの開催・開講により、日本人、外国人を問わず就業・起業を望む人材への支援や育成を行う。
	「わかもの・よそも」交流の促進	農商業の後継者たちが孤立しないよう、交流会の積極的な開催やウェブを使った交流を促進する。さらに、大学生などが試験的に出店できるように地域住民が支える仕組みをつくり、地元後継者と若者が一緒に交流できるネットワークを構築し、常総市への新規起業育成や後継者の獲得に資する。
	ベンチャー営農活動拠点の構築	若者・後継者が農作物の試験栽培ができて学べる「検証ハウス」を、集客力があり販路開拓にも適した常総インターチェンジ道の駅に併設し、新規栽培のリスクを低減させる。また、この活動拠点には、若者・後継者がいつでも相談できたり、交流できたりする駆け込み寺的な機能も持たせる。